

西宮市における県外避難 者の支援活動

関西学院大学
社会学部
災害復興制度研究所
関 嘉寛

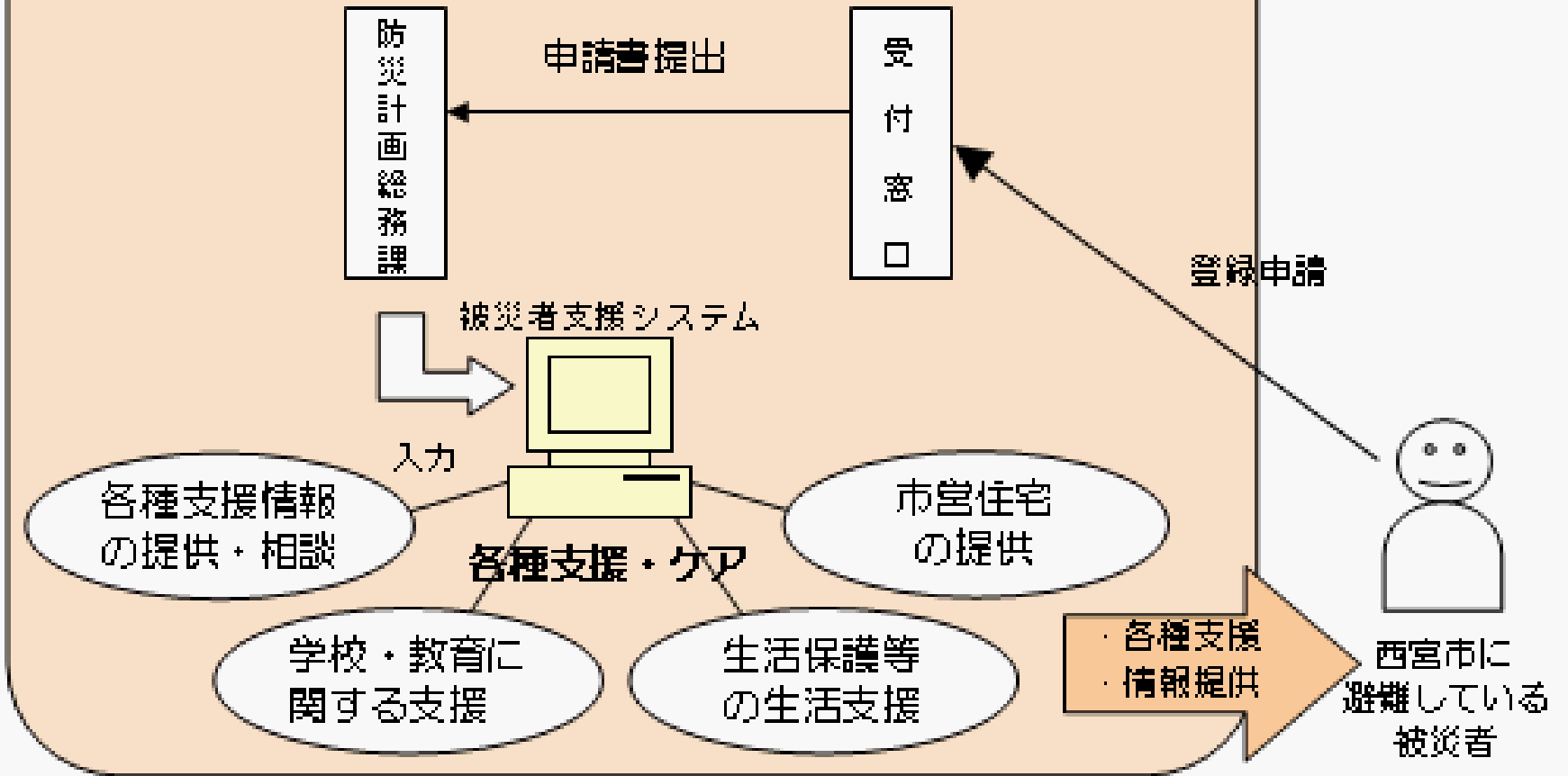
西宮市における県外避難者の 受け入れ状況

- 西宮市被災者登録制度での「県外避難者」の登録（西宮市HPより）

【手続きの流れ】

- ① 受付窓口で登録申請書を記入
- ② 西宮市で行う各種支援・ケアの窓口を案内
- ③ 必要となる各種支援・ケアを各窓口で相談・手続
- ④ 新たな支援情報やお知らせなどを、適宜、提供

西宮市



西宮市における住宅提供

- (市HPより)市では、被災者支援の一環として、現在、**被災者**が入居できる**市営住宅50戸**を提供できるように、対策を進めています。第1次(10戸)、第2次(10戸)に続き、第3次(10戸)の入居準備が整いました。
- 募集対象及び、受付状況は次のとおりです。ご確認ください。
- <対象になる方>
- 東日本大震災により住宅に重大な被害を受け、住宅に困窮している方

提供戸数	入居許可 決定戸数	受入可能 残戸数
30	6	24

KSNによる県外避難者支援活動

- KSNプロジェクト
 - K=関西学院大学災害復興制度研究所
 - S=西宮市社会福祉協議会
 - N=日本災害救援ボランティアネットワーク(NVNAD)
- 経緯
 - 日頃のネットワークから、支援と協働の必要性を確認
- JR西日本あんしん社会財団東日本大震災助成(2011.5～2012.3)

KSNプロジェクトに向けての 市との打ち合わせ

- 西宮市への県外避難者の状況把握のために、西宮市へのヒヤリング(2011. 5)
 - 防災対策の担当部署
 - 市の基本的姿勢の確認、避難者の状況などについて聞く
- ❖ **ただし、市からの情報提供が難しく、活動に限界**
- 市長などとの懇談(2011. 6)
 - 担当部署への紹介
 - 協力関係の再確認
- ❖ **全世代の避難者向けのイベントを計画**

KSNプロジェクトの実施

	開催日	テーマ	参加者
第1回	2011. 7	デイキャンプ	5世帯12名
第2回	2011. 8	法律相談＋子ども遊び	4世帯11名
第3回	2011. 10	芋掘り	6世帯12名
第4回	2011. 12	クリスマス会	7世帯14名
第5回	2012. 2	料理教室	3世帯9名
第6回	2012. 3	座談会	5世帯10名

- ・結果的に、ほとんどがお母さん＋子どもという参加形態であった

KSNプロジェクトの活動から 見えて来たこと

- 市の受け入れ体制
 - 窓口における対応の重複など
 - 何度も同じ説明をする必要がある
 - 通常業務との兼ね合い
 - 「避難者」としての特別扱いと他の住民と同等の扱い
- ❖ **ワンストップ窓口や統括的な担当部署の要望**

KSNプロジェクトの活動から 見えて来たこと

- 住宅の問題
 - 自主避難者への住宅提供
 - 当初は、自主避難者への住宅提供はなかったが、後に「被災者」に拡大される
 - 提供物件の問題
 - 提供される物件は、市の「余力」部分。したがって、避難者の希望に添うものでは必ずしも無い
- ❖ 住宅担当部署との打ち合わせ、提案

KSNプロジェクトの活動から 見えて来たこと

- 生活の問題
 - 避難生活
 - 二重生活の困難さ
 - 慣れない土地での生活
 - 原発などの補償
 - 落ち着かない避難生活と手続きの煩雑さ
 - 被災地に住む人と避難してきた人との認識の差
 - 何が「危険」なのか
- ❖ 「寄り添い」活動、交流活動へ

KSNプロジェクトの活動から 見えて来たこと

- 情報の問題
 - 被災地の情報がなかなか入らない
 - 市による情報提供がある
 - インフォーマルな情報が手に入らない
 - 情報への信頼性
 - 何が「正しいのか」

❖ KSNでの補足的情報の提供

今後の活動

- 市での対応
 - 住民票を移動させる避難者も増える
 - しかし、「県外避難者」の問題が亡くなりつつあるのではないという認識
 - 状況を把握する必要
 - 担当部署の決定⇔権限内での調査の可能性
- KSN
 - 「寄り添い」、交流活動の継続
 - 市と連携して、県外避難者の実態把握、さらなる支援活動への展開